



地域元気指数

地域の元気度はコロナ禍前の水準まで回復 地域の祭りの再開が大きな喜び

コロナ禍3年目、新しいイベントの創出や祭りの復活の評価が高まった。
一方、地域のかげがえのない祭りや伝統行事が失われてしまう懸念も。

全国「地域元気指数調査2022」発表

株式会社アール・ピー・アイ(所在地:千代田区 代表取締役:長澤 博英)は、**住民自身が地域の元気度、幸せ度を評価する「全国『地域元気指数調査』」**を2016年より毎年実施しています。

2022年で第7回目となる今回の「地域元気指数」は2021年の5.64を上回る5.67となり、コロナ禍前の最高値に近づいています。元気の要素をみると、商店街の活気や内外の観光客の増加など『賑わい』に関わる要素が上昇しており、これが元気度の回復に寄与していると考えられます。

一方で、幸せ指数は2022年は6.05となり、昨年の過去最高値の6.15から大幅に低下、コロナ禍が始まった2020年の最低値近くまで落ち込んでいます。これは幸せ指数との相関が高い『住みやすさ』に関わる要素の低下が影響しており、コロナのみならず物価高騰や不安定な世界情勢など、激動する社会経済環境が、地域の暮らしと人々の情意に不安をもたらしているものと考えられます。

都道府県別では、沖縄県が元気度で1位、幸せ度でも2位となり昨年来からの落ち込みから回復、観光客の増加によって地域の賑わいが戻ってきたことが要因として考えられます。

■「地域元気指数」「幸せ指数」とは…全国の男女約10万人を対象に、現在自分が暮らす地域がどのくらい元気か、自分がどのくらい幸せかを1～10点で採点してもらい、その平均値を自治体ごとに算出した独自の指数です。指数に換算することで地方公共団体などの施策立案などに活用されています。

[調査サマリー]

■地域の元気度はコロナ禍前の水準まで回復。幸せ感はコロナ禍直後の水準まで再び下落。

第7波のコロナ感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻、円安や物価の高騰など、社会経済情勢に対する不安が幸せ指数を押し下げたと推察される。

■男性20～30歳代は、新しい生活様式を前向きに捉えている。

幸せ指数の低下が目立ったのは女性20～40歳代と男性60歳代であったが、一方、男性20～30歳代では幸せ指数が低下しておらず、男性30歳代は地域を元気と感じる指数が高まっている。

■祭りの再開や新規イベントの創出が住民の大きな希望。一方、地域のかげがえのない祭りや伝統行事などの物語が失われてしまう懸念も

「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」や「国内の観光客・旅行者が増えている」が増加。一方、「地域の祭りやイベントが盛ん」「地域固有の歴史や伝統行事がある」はコロナ禍以降減少が続く。

■宮城県、愛媛県、青森県、新潟県などで「新しいイベント・祭りの復活」への評価が上昇。沖縄県は「国内旅行者の増加」が大幅アップ。元気指数は全国1位となった。

「新しいイベント・祭りの復活」への評価が上昇したのは、宮城県、愛媛県、青森県、新潟県など。「国内の観光客・旅行者が増えている」は、沖縄県が他県を大きく引き離し、元気指数は全国1位となった。

本リリースの調査データを以下にアップしております。

https://rpi.co.jp/chiiki-genki/genki_summary/

●全国「地域元気指数調査2022」に関するお問い合わせ

株式会社アール・ピー・アイ 東京都千代田区神田神保町2-38 いちご九段ビル3階
E-mail:genki@rpi.co.jp 電話:03-5212-3411

地域を元気にしたい。

RPI Regional Planning Institute

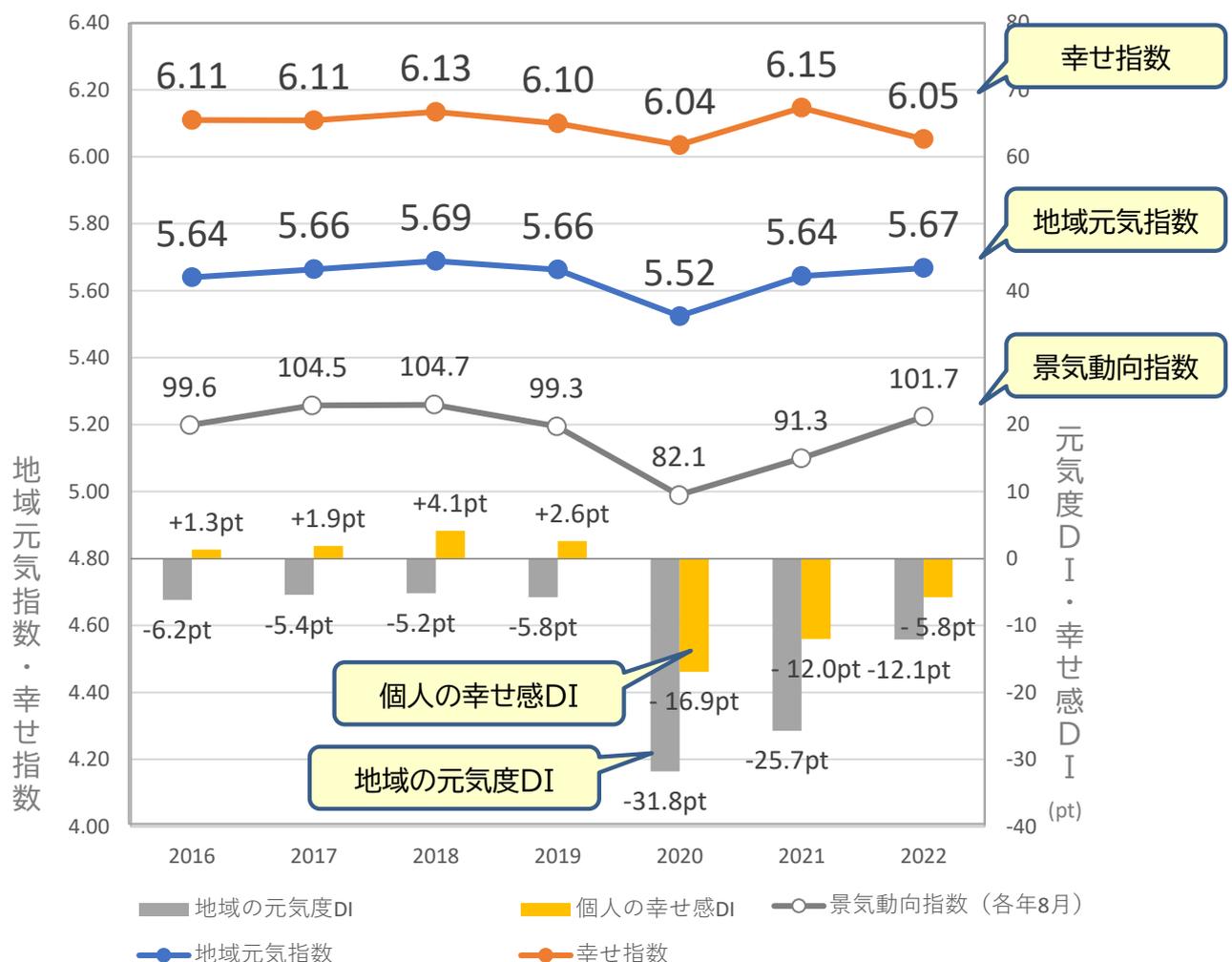
地域の元気度はコロナ禍前の水準まで回復

幸せ度は社会経済情勢の不安からコロナ禍直後の水準まで再び落ち込んだ

地域元気指数は前年に比べ微増を示し、コロナ禍前の2019年の水準まで回復した。
一方、幸せ指数はコロナ禍1年目と同程度となり、再び落ち込んだ。

調査時点の2022年8月は、国内では第7波のコロナ感染拡大、世界ではロシアによるウクライナ侵攻、円安や物価の高騰など、社会経済情勢に対する不安が幸せ指数を押し下げたと推察される。

■地域元気指数・幸せ指数の推移



※DI(デフィニション・インデックス): 対前年からの変化の方向性を示す指数
「増えた」の回答割合-「減った」の回答割合で算出

2. 性年代別、都道府県別の地域元気度と幸せ度

全国「地域元気調査2022」

**社会経済情勢への不安を直に感じているのは、女性20～40歳代と男性60歳代
男性20～30歳代は、新しい生活様式を前向きに捉えている**

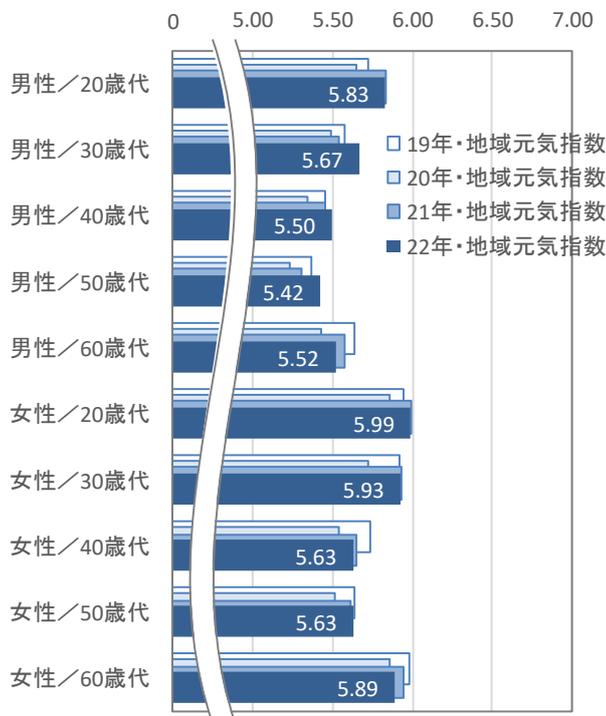
性年代別にみると、幸せ指数の低下が目立ったのは女性20～40歳代と男性60歳代で、ウクライナ侵攻や物価高といった社会経済情勢への不安を強く感じている層といえる。

一方、男性20～30歳代では、幸せ指数が低下しておらず、男性30歳代は地域を元気に感じる指数が高まっている。男性20～30歳代は、新しい生活様式を前向きに捉えている様子うかがえる。

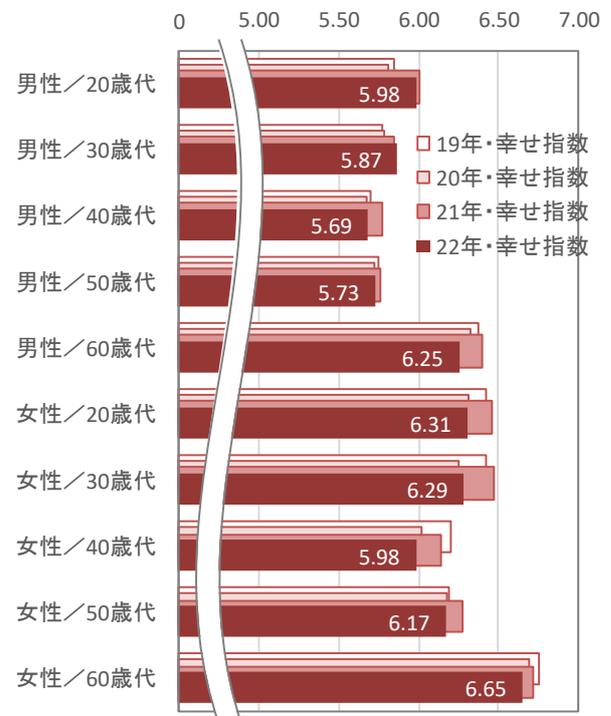
都道府県別にみると、過去の傾向と同様、元気指数は北が低く南が高い傾向にある。

昨年より元気度が上がった都道府県は、沖縄県、石川県、鳥取県、徳島県、北海道、新潟県、神奈川県、広島県、宮崎県などであった。

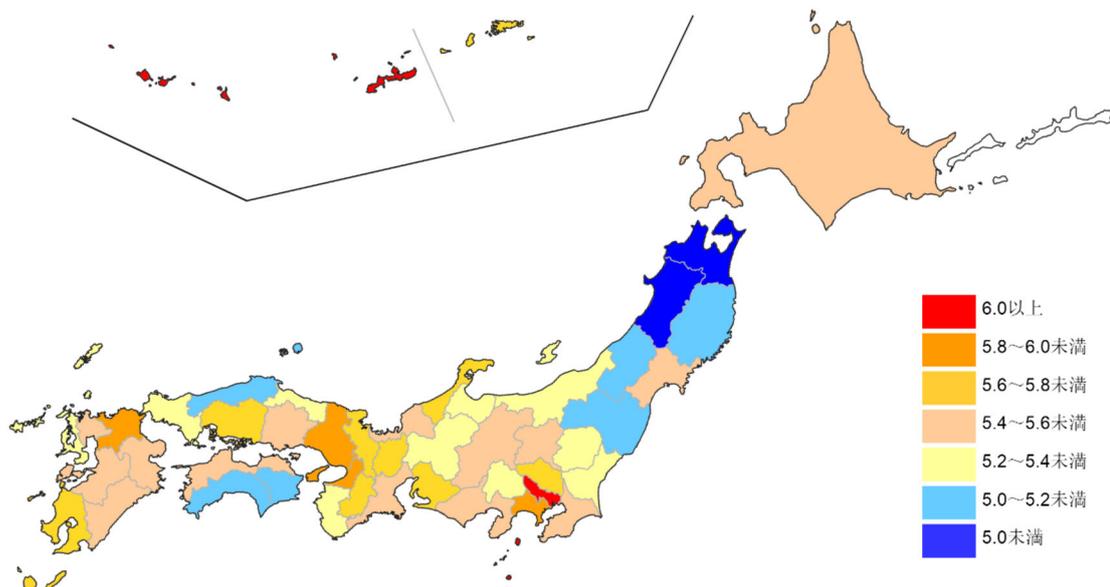
■性年代別 地域元気指数



■性年代別 幸せ指数



■都道府県別 地域元気指数



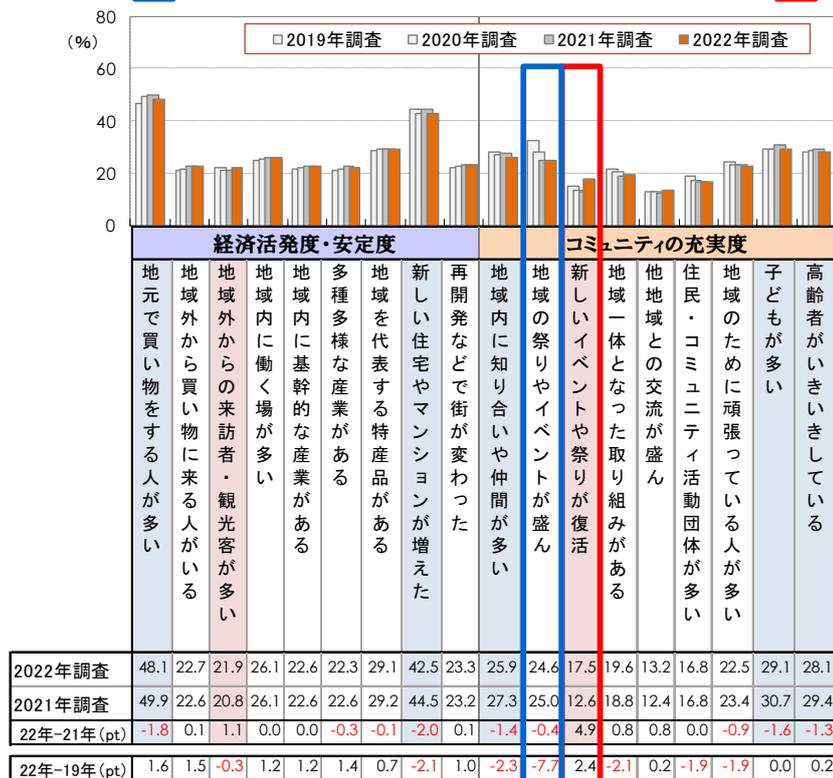
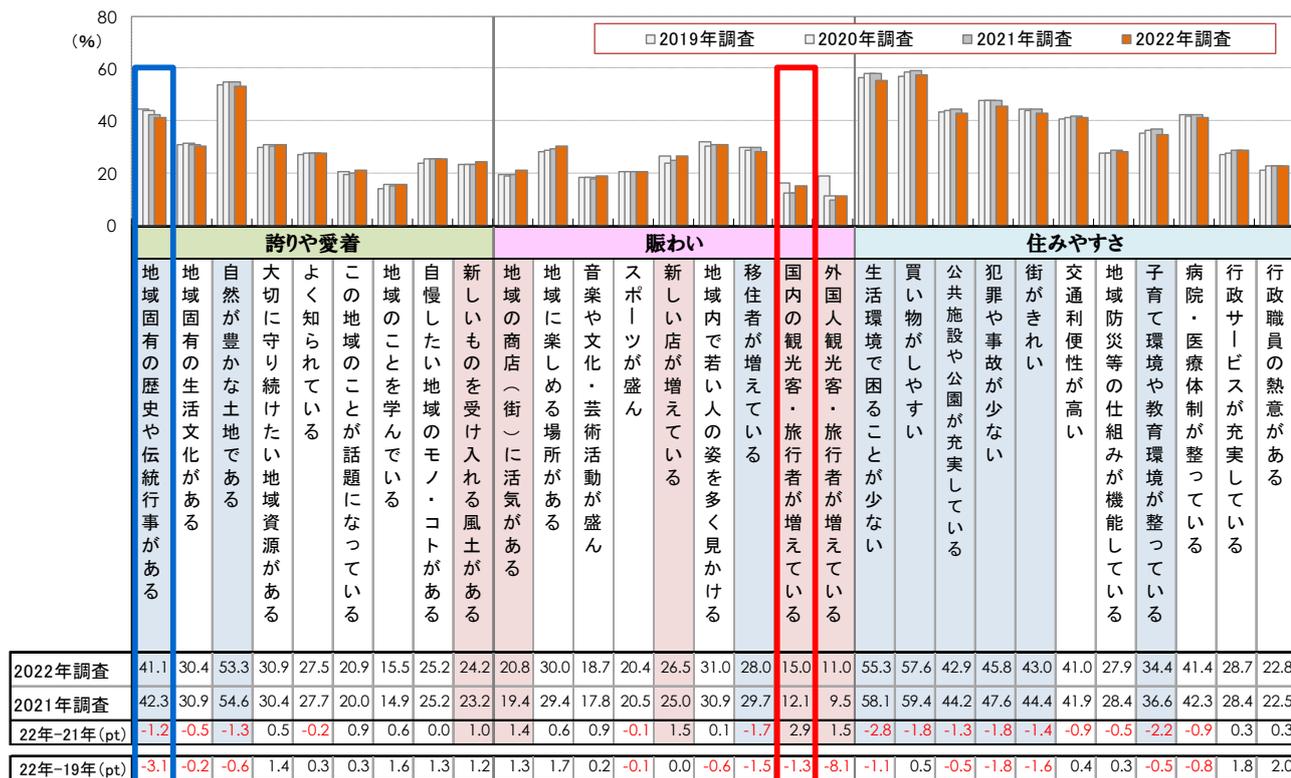
祭りの再開や新規イベントの創出が住民の大きな希望

一方、地域のかげがえのない祭りや伝統行事などの物語が失われてしまう懸念も

住んでいる地域に対する評価では、「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」が増加。不安定な社会情勢が続く中、祭りの再開や新規イベントの創出が住民の大きな希望となっている。「国内の観光客・旅行者が増えている」も増加、旅行市場が回復をみせている。

一方で「地域の祭りやイベントが盛ん」「地域固有の歴史や伝統行事がある」はコロナ禍以降減少が続いており、これまで連続として続いてきた地域のかげがえのない祭りや伝統行事が失われることが懸念される。

■地域元気の評価47要素（それぞれ単一回答／「当てはまる」「やや当てはまる」の合計）



※「新しいイベントや祭りが復活」：調査票では「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」

■ 前年より1pt以上増加
■ 前年より1pt以上減少

4. 都道府県別にみた評価の高まった項目

宮城県、愛媛県、青森県、新潟県などで「新しいイベント・祭りの復活」への評価が上昇。沖縄県は「国内旅行者の増加」が大幅アップ。元気指数は全国1位となった。

都道府県別にみると、「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」の評価は、宮城県(+10.3pt)、愛媛県(+9.2pt)、青森県(+8.4pt)、新潟県(+8.1pt)などで特に高まった。コロナの影響で祭りを開催できなかった年が続き、久しぶりに開催できる喜びが大きくあらわれた。

「国内の観光客・旅行者が増えている」は、沖縄県が41.0%と他県を大きく引き離し、コロナ前の水準には届かないが、前年を大きく上回った(21年:33.1%、20年:34.6%、19年:48.7%)。調査時点の2022年8月は、第7波の感染拡大が起きる中、行動制限のない夏の旅行シーズンを迎え、前年を上回る旅行者の来訪を住民自身も実感し、沖縄県の元気指数は全国1位に返り咲いた。

■「新しいイベントができた・地域の祭りが復活した」の評価

●前年差による順位

●Q4-5-3_新しいイベントができた・地域の祭りが復活した

順位	県名	前年差(pt)
	全国平均	+4.9
1位	宮城県	+10.3
2位	愛媛県	+9.2
3位	岩手県	+8.8
4位	青森県	+8.4
4位	神奈川県	+8.4
6位	新潟県	+8.1
7位	北海道	+7.2
8位	高知県	+6.8
9位	福岡県	+6.4
10位	大阪府	+6.2

●割合による順位

●Q4-5-3_新しいイベントができた・地域の祭りが復活した

順位	県名	割合(%)
	全国平均	17.5
1位	宮城県	23.2
2位	愛媛県	22.2
3位	福岡県	21.5
4位	石川県	21.3
5位	沖縄県	21.1
6位	青森県	21.0
7位	新潟県	20.7
8位	兵庫県	19.5
9位	神奈川県	19.3
10位	大分県	19.0

コロナ化で中止になっていたイベントが3年ぶりに開催された(宮城県名取市)

久々の夏祭りで町全体が盛り上がっている(宮城県石巻市)

今年は秋祭りが開催される予定(愛媛県新居浜市)

お祭りや夜市が再開した(愛媛県松山市)

2年ぶりにねぶた祭りも決行。地域の元気度は最高に盛り上がっている(青森県青森市)

地元の祭りが開催できるようになった(青森県五所川原市)

コロナ禍で中止していた花火大会が開催されるようになり活気づいてきた(新潟県長岡市)

■「国内の観光客・旅行者が増えている」の評価

●前年差による順位

●Q4-2-8_国内の観光客・旅行者が増えている

順位	県名	前年差(pt)
	全国平均	+2.9
1位	愛媛県	+8.1
2位	沖縄県	+7.9
3位	北海道	+7.6
4位	青森県	+5.8
5位	京都府	+5.4
6位	福岡県	+5.3
7位	栃木県	+5.2
8位	高知県	+4.9
9位	富山県	+4.6
9位	長崎県	+4.6

●割合による順位

●Q4-2-8_国内の観光客・旅行者が増えている

順位	県名	割合(%)
	全国平均	15.0
1位	沖縄県	41.0
2位	石川県	27.2
3位	京都府	24.7
4位	北海道	23.7
5位	島根県	21.8
6位	長野県	21.6
6位	愛媛県	21.6
8位	山梨県	20.3
9位	福岡県	19.6
10位	高知県	19.1

■地域元気指数の増減による順位

地域元気指数の増減

順位	県名	前年差	2022
	全国平均	+0.03	5.67
1位	沖縄県	+0.44	6.17
2位	石川県	+0.23	5.79
3位	鳥取県	+0.18	5.37
4位	徳島県	+0.16	5.13
5位	北海道	+0.13	5.45
5位	神奈川県	+0.13	5.92
5位	宮崎県	+0.13	5.50
8位	新潟県	+0.12	5.30
9位	広島県	+0.10	5.78
10位	群馬県	+0.08	5.42
10位	滋賀県	+0.08	5.69
10位	奈良県	+0.08	5.64

■元気度 都道府県ランキング

()内は前年調査結果

順位	都道府県名 サンプル数	地域元気指数
1位 ↗ (8位)	沖縄県 n=1,354	6.17 ↗ (5.73)
2位 ↘ (1位)	東京都 n=5,184	6.12 ↘ (6.13)
3位 ↗ (5位)	神奈川県 n=3,412	5.92 ↗ (5.79)
4位 ↘ (2位)	福岡県 n=3,908	5.89 ↘ (5.95)
4位 ↘ (3位)	兵庫県 n=3,916	5.89 ↗ (5.85)
6位 ↗ (7位)	大阪府 n=6,290	5.83 ↗ (5.76)
7位 ↗ (15位)	石川県 n=1,152	5.79 ↗ (5.56)
8位 ↗ (11位)	広島県 n=1,802	5.78 ↗ (5.68)
9位 ↘ (4位)	愛知県 n=7,024	5.77 ↘ (5.82)
10位 ↗ (13位)	滋賀県 n=1,896	5.69 ↗ (5.61)
全国平均 n=100,000		5.67 ↗ (5.64)

■幸せ度 都道府県ランキング

()内は前年調査結果

順位	都道府県名 サンプル数	幸せ指数
1位 ↗ (3位)	奈良県 n=2,138	6.40 ↗ (6.36)
2位 ↗ (4位)	沖縄県 n=1,354	6.29 ↘ (6.32)
3位 ↗ (8位)	和歌山県 n=1,126	6.23 ↘ (6.25)
4位 ↗ (5位)	大分県 n=916	6.21 ↘ (6.31)
5位 ↘ (2位)	東京都 n=5,184	6.19 ↘ (6.37)
5位 ↗ (11位)	広島県 n=1,802	6.19 ↘ (6.21)
5位 ↗ (26位)	福井県 n=847	6.19 ↗ (6.08)
8位 ↘ (5位)	鹿児島県 n=1,146	6.18 ↘ (6.31)
8位 ↗ (15位)	山口県 n=1,439	6.18 ← (6.18)
10位 ↗ (13位)	三重県 n=1,839	6.16 ↘ (6.19)
10位 ↗ (18位)	滋賀県 n=1,896	6.16 ↗ (6.15)
全国平均 n=100,000		6.05 ↘ (6.15)

■元気度 市ランキング

()内は前年調査結果

順位	市名 サンプル数	地域元気指数	市規模
1位 ← (1位)	愛知県長久手市 n=157	7.20 ↗ (7.19)	5万人以上の市
2位 ↗ (11位)	福岡県福津市 n=136	6.73 ↗ (6.45)	5万人以上の市
3位 ↗ (4位)	東京都武蔵野市 n=188	6.70 ↗ (6.59)	10万人以上の市
4位 ↗ (8位)	千葉県流山市 n=209	6.66 ↗ (6.54)	10万人以上の市
5位 ← (5位)	宮城県富谷市 n=128	6.63 ↗ (6.58)	5万人以上の市
6位 ← (6位)	神奈川県海老名市 n=191	6.62 ↗ (6.56)	10万人以上の市
7位 ↗ (10位)	福岡県福岡市 n=123	6.60 ↗ (6.53)	政令指定都市
8位 ↗ (2位)	兵庫県西宮市 n=226	6.59 ↘ (6.68)	30万人以上の市
9位 ↘ (3位)	石川県野々市市 n=155	6.55 ↘ (6.60)	5万人以上の市
10位 ↗ (28位)	兵庫県明石市 n=194	6.52 ↗ (6.27)	30万人以上の市
ランキング対象「市」平均 n=79,357		5.73 ↗ (5.71)	

■幸せ度 市ランキング

()内は前年調査結果

順位	市名 サンプル数	幸せ指数	市規模
1位 - (15位)	沖縄県南城市 n=56	6.85 -	5万人未満の市
2位 ↗ (15位)	鹿児島県姶良市 n=98	6.71 ↗ (6.55)	5万人以上の市
3位 - (15位)	長野県駒ヶ根市 n=51	6.67 -	5万人未満の市
4位 ↘ (2位)	山梨県富士吉田市 n=68	6.66 ↘ (6.88)	5万人未満の市
5位 ↗ (350位)	大阪府富田林市 n=173	6.65 ↗ (6.04)	10万人以上の市
6位 ↗ (17位)	茨城県守谷市 n=128	6.62 ↗ (6.53)	5万人以上の市
7位 ↗ (9位)	福岡県大野城市 n=166	6.60 ↘ (6.65)	10万人以上の市
7位 ↗ (8位)	奈良県奈良市 n=200	6.60 ↘ (6.66)	30万人以上の市
7位 ↗ (30位)	愛知県日進市 n=196	6.60 ↗ (6.49)	5万人以上の市
ランキング対象「市」平均 n=79,357		6.06 ↘ (6.16)	

■元気度 町村ランキング

()内は前年調査結果

順位	町村名 サンプル数	地域元気指数	町村規模
1位 ↗ (4位)	熊本県菊陽町 n=62	7.22 ↗ (6.90)	町村
2位 ↗ (15位)	沖縄県与那原町 n=35	7.10 ↗ (6.42)	町村
3位 ↗ (42位)	長野県南箕輪村 n=21	7.06 ↗ (6.01)	町村
4位 ↗ (7位)	沖縄県北谷町 n=26	7.02 ↗ (6.77)	町村
5位 ↗ (23位)	静岡県長泉町 n=73	6.99 ↗ (6.27)	町村
6位 ↘ (1位)	福岡県新宮町 n=80	6.97 ↘ (7.13)	町村
7位 ↘ (3位)	山梨県昭和町 n=34	6.93 ↗ (6.92)	町村
8位 ↘ (6位)	長野県軽井沢町 n=23	6.74 ↘ (6.80)	町村
9位 ↗ (45位)	三重県朝日町 n=20	6.68 ↗ (5.97)	町村
10位 ↗ (14位)	広島県府中町 n=150	6.64 ↗ (6.52)	町村
ランキング対象「町村」平均 n=9,472		5.58 ↗ (5.51)	

■幸せ度 町村ランキング

()内は前年調査結果

順位	町村名 サンプル数	幸せ指数	町村規模
1位 ↗ (30位)	大阪府豊能町 n=35	7.38 ↗ (6.63)	町村
2位 ↗ (4位)	沖縄県北中城村 n=35	7.10 ↗ (6.97)	町村
3位 ↗ (41位)	長野県軽井沢町 n=23	7.07 ↗ (6.56)	町村
4位 ↗ (209位)	滋賀県愛荘町 n=25	7.04 ↗ (5.41)	町村
5位 ↗ (174位)	三重県朝日町 n=20	6.98 ↗ (5.77)	町村
6位 ↗ (20位)	熊本県菊陽町 n=62	6.92 ↗ (6.70)	町村
7位 ↗ (136位)	宮崎県門川町 n=22	6.90 ↗ (6.01)	町村
8位 ↗ (114位)	愛知県南知多町 n=31	6.88 ↗ (6.12)	町村
9位 ↗ (114位)	富山県立山町 n=34	6.86 ↗ (6.12)	町村
9位 ↘ (7位)	山梨県昭和町 n=34	6.86 ↘ (6.87)	町村
ランキング対象「町村」平均 n=9,472		6.15 ← (6.15)	

※ランキング対象市町村の基準

- 市: サンプル数が50件以上かつ人口3万人以上
- 町村: サンプル数が20件以上かつ人口1万人以上
- ※東京特別区部は、一体でカウント
- ※人口規模は、令和2年国勢調査時点での人口で分類

■ランキング対象市町村数(2022年10月1日時点)

- 市: 603(全市の76.0%)
- 町村: 222(全町村の24.0%)
- 計: 825市町村



～地域元気指数調査とは～

「地域元気指数(地域元気度)」は、全国の男女約10万人を対象に、現在自分が暮らす地域がどのくらい元気を1～10点で採点してもらい、その平均値を自治体ごとに算出した独自の指数です。

「幸せ指数(幸せ度)」は、同調査において、自分がいまどのくらい幸せかを1～10点で自己評価してもらい、その平均値を自治体ごとに算出した独自の指数です。

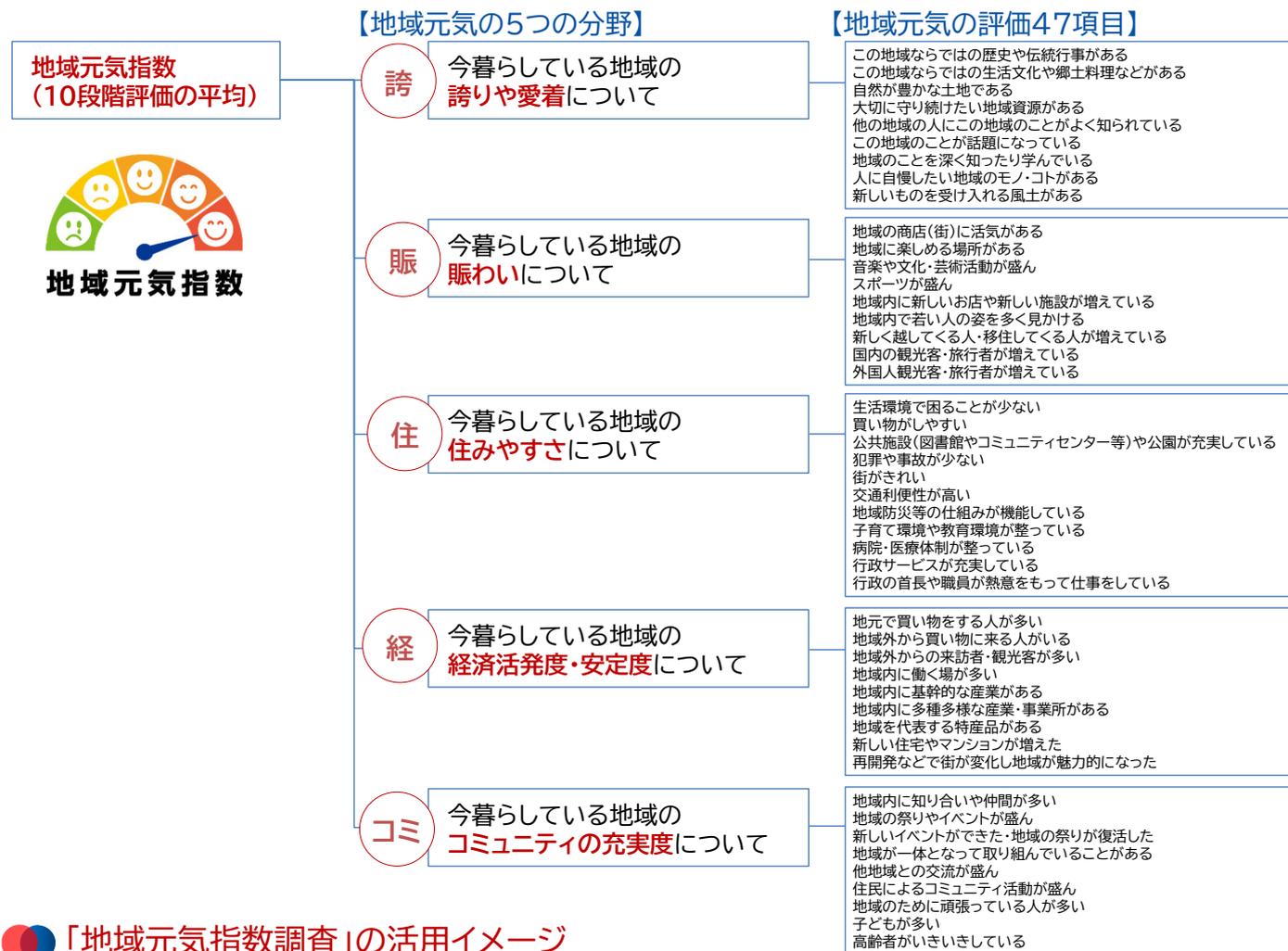
住民自身による評価を「見える化」し、全国における位置や経年変化を把握することのできるユニークな基礎調査として、学術研究分野や国・地方公共団体の施策立案などで活用されています。

調査概要

- 【調査方法】 インターネットによる調査(マクロミルモニター)
【調査対象】 全国20～69歳の男女
【調査時期】 2022年8月2日～8月9日
【サンプル数】 1次調査 100,000人
【集計方法】 令和2年国勢調査に基づき、全国の市区町村人口規模別30区分×男女×年代3区分=180区分の人口構成に従ってウェイトバック集計を行った。

「地域元気指数」の構成要素

「地域元気指数(地域元気度)」は、現在自分が暮らす地域がどのくらい元気を1～10点で採点してもらい、その平均値を自治体ごとに算出した独自の指数です。また、郷土愛や経済、住民交流など5分野全47項目にわたる設問「地域元気の評価要素」を通じ、地域元気度の源を探る手がかりを提供しています。



「地域元気指数調査」の活用イメージ

本調査結果は、都道府県別・市町村別にアウトプットし、各地域の地域運営に資する有益なデータとして活用していただくことが可能です。例えば、地域元気の評価47要素を詳細に分析することによって、各地域の元気を支える要因や、弱い項目=地域課題を明らかにし、これからの施策立案や地域住民との相互理解に役立てることが出来ます。また、経年調査であることから、施策のKPI(重要業績評価指標)のひとつとして、効果検証や進捗管理等への活用も期待できます。

株式会社アール・ピー・アイのご紹介

アール・ピー・アイは「まちづくり」を中心とした、調査・コンサルティング・事業プロデュース・運営サポートを行う会社です。私たちは地域づくりのさまざまな分野、場面において、地域が抱えるテーマに対し、ともに最適解を導きだし課題を解決する、グッドパートナーとしてチカラになることを目指しています。私たちは、地域を元気にし、より多くの人々が幸福な生活をおくることのできる地域社会の実現に向けて、これからも労を惜みせず、情熱をもって努力し続けます。

地域を元気にしたい。
RPI Regional Planning Institute